

原 著

## 口腔保健行動に対する自己効力感測定尺度 (SEOH) の開発

—信頼性と妥当性の検討—

五月女さき子<sup>1)</sup> 梶原 和美<sup>2)</sup> 於保 孝彦<sup>3)</sup>

**概要：**口腔保健行動に関する患者の心理・行動の変化を評価するために、本行動に対する自己効力感測定尺度(SEOH, self-efficacy scale for oral health behavior)を開発し、その信頼性・妥当性を明らかにした。57項目からなる尺度原案を作成し、学生被験者計187名を対象に調査を実施した。項目分析により25項目からなるSEOHを作成し因子分析を行った結果、「ブラッシング行動に対する自己効力感」、「生活習慣に対する自己効力感」、「心理的統制に対する自己効力感」、「健診行動に対する自己効力感」の4因子が抽出された。SEOHは特性的自己効力感尺度と有意な相関が認められたことからその妥当性が示された。SEOH得点と質問紙調査との比較では、「歯磨き回数」、「清掃器具の数」、「歯の健康への自信」、「口腔の健康に関する知識」などの項目で高得点群と低得点群間で有意な差が認められた。以上のことから、SEOHは予防歯科臨床において着目すべき自己効力感を測定できる尺度として有効であることが示唆された。

**索引用語：**自己効力感, セルフケア, 患者指導, 尺度開発